

令和5年度 八戸市総合教育センター運営協議会会議録

日時：令和5年11月6日（月）15：00－16：30

場所：八戸市総合教育センター 第1研修室

出席委員：12名

川上委員、中村委員、前田委員、花生委員、老久保委員、釜石委員、吉岡委員、横沢委員、和泉委員、乙山委員、三戸委員、大江委員

事務局：10名

齋藤教育長、熊谷次長、河村総合教育センター所長、青山主任指導主事、石井主任指導主事、佐々木主任指導主事、畠山主任指導主事、小向主任指導主事、大下主任指導主事、西村主任指導主事、

会議内容：下記のとおり

（事務局：河村）

皆さん、こんにちは。本日は、当センターの運営協議会に御出席賜りまして本当にありがとうございます。本日の司会を担当いたします、当センターの河村と申します。本日はどうぞよろしく願いいたします。定刻より早いのですが、皆様お揃いになりましたのでこれから始めさせていただきたいと思っております。

それでは、ただいまより、「令和5年度 八戸市総合教育センター運営協議会」を開催いたします。

まず、はじめに齋藤教育長が運営協議会委員の皆様への委嘱状を交付いたします。

委員の皆様のお名前を順にお呼びいたします。名前を呼ばれましたら、その場にお立ちください。

八戸市連合父母と教師の会 代表	川上 敦史（かわかみ あつし） 様
八戸市小学校長会 代表	中村 雅臣（なかむら まさおみ） 様
八戸市中学校長会 代表	前田 篤志（まえだ あつし） 様
八戸市小学校教育研究会 代表	花生 典幸（はなおい のりゆき） 様
八戸市中学校教育研究会 代表	老久保 智（おいくぼ さとし） 様
八戸市中学校教頭会 代表	釜石 潤（かまいし じゅん） 様
八戸市中学校教務主任会 代表	吉岡 津貴教（よしおか つきのり） 様
八戸市小・中学校研修主任 代表	横沢 深雪（よこさわ みゆき） 様
八戸市小学校教育研究会理科教育研究会 代表	和泉 知子（いずみ ちかこ） 様
八戸市小学校教育研究会視聴覚教育研究会 代表	乙山竜太郎（おとやま りゅうたろう） 様
八戸市教科等研究委員 代表	三戸 佳子（さんのへ よしこ） 様
八戸市小学校教育研究会外国語教育研究会 代表	大江 寛子（おおえ ひろこ） 様

本日は委員の皆様を代表いたしまして、八戸市連合父母と教師の会 代表 川上 敦史 様に齋藤教育長より委嘱状を交付いたします。

(齋藤教育長)

委嘱状。川上 敦史 様。八戸市総合教育センター運営協議会委員を委嘱します。期間令和5年11月6日から令和6年3月31日までとします。八戸市教育委員会 教育長 齋藤 信哉。どうぞよろしくお願ひいたします。

(事務局：河村)

皆様、御着席ください。

川上さん以外の委員の皆様には、委嘱状をあらかじめ机の上に配布させていただいております。御確認ください。よろしくお願ひします。

では続きまして、教育長 齋藤 信哉が皆様に御挨拶を申し上げます。

(齋藤教育長)

それでは皆様、改めましてこんにちは。

今日はですね、大変お忙しい中、当運営協議会に出席いただきまして、誠にありがとうございます。ございます。

11月に入ったと思ったら、もう一週間近く経とうとしていました。今年度も、半分折り返して後半戦ということになっております。御承知のように、5月にコロナ感染症が5類に引き下がって、学校の教育活動も従来の形に戻りつつあるのかなと思っていました。今年度末、還暦で定年という言葉はないのですが、役職退職する校長先生方のところに訪問を始めたところです。2校ばかり終わりましたが、その訪問のときにですね、子どもたちの様子をちらちらと見てくるんですけども、大半の子どもたちがもうマスクを外しているなあと。そこはびっくりしましたね。そして、今日も小中野小学校で健康教育の授業を弘大の中路先生を講師にお迎えして、2時間ばかり見学してきましたけれども、先ほどの訪問、あるいは今日の健康教育で子どもたちの様子を見て、コロナ禍でいろいろ制限される中ではあったけれども、子どもたちがしっかり育っているなあと、そういう思いで見えてきました。これもひとえに、先生方の努力があって今の子どもたちの姿がある、とそう思っております。

御承知のように、当市では何年前、もうだいぶ経ちましたけれども中核市に移行となつて、教職員の研修、法定研修も含めて、大概のものを八戸市で実施するという形になりました。ただ内容によっては県の総合学校教育センターと連携をしながら一緒に受講するという、そういう場面ももちろん確保するために、県と委託契約を結んで今やっているところでした。何を言いたいかというと、先生方、教職員の、やはり子どもたちを育てるという根幹には、この研修があって初めて実現できるとそう思っております。今学校も働き方改革云々ということではいっぱい騒がれていますけれども、このいくら忙しい中であっても、この研修だけはしっかりこう担保をして、そして子どもたちにしっかりそれを伝達してあげるといふ。それがね、我々教職員の使命ではないのかなと、こういつも思っているところでした。

今日はこの後、担当の方からですね当センターが担う5つの事業について説明をさせて

いただきます。そして、その5つの事業について皆様から忌憚のない御意見をいただいて、今後の運営の方に生かしていきたいと、そう思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

最後になりましたけれども、まだまだコロナ、それから最近はインフル、まだこういったものが終息をみないものがあります。学校においては学級閉鎖、学年閉鎖、そういったところもみられるようです。どうぞ委員の皆様も健康管理だけは十分に気を付けられてですね、子どもたちのために汗を流していただければなど、そう思っております。本日は、どうぞ、よろしく願いいたします。

(事務局：河村)

ありがとうございました。それでは、本日の協議では、事前にお送りさせていただいた「協議会資料」、お持ちになっておりますでしょうか。そちらと、今日、机の上に配布しております「開催要項等の資料」をもとに、先ほど教育長も挨拶で申し上げましたように、5つの事業にしぼって、皆様から御意見を頂戴してまいりたいと存じます。

それでは、机の上に配布しておりました開催要項等の資料5ページを御覧ください。「八戸市総合教育センター運営協議会規則」という資料でございます。

そちらの方、第3条に、「協議会は、会長が招集する。ただし、新たに委員の委嘱が行われた後、最初に招集すべき協議会の会長の職務は、教育長が行う。」とありますので、会長選任までの議長を教育長が行います。

また、同じく第3条第2項に「協議会は、委員の半数以上が出席しなければ会議をひらくことができない」とあります。本日は、委員の半数以上、全員が出席されておりますので、会議が成立しておりますことを御報告いたします。

それでは教育長、よろしく願いいたします。

(齋藤教育長)

それでは、暫時進行の方を進めさせていただきます。

まずは、協議会の会長及び副会長の選任に入らせていただきます。

開催要項等の資料、八戸市総合教育センター運営協議会規則第2条に、「協議会には会長及び副会長各1名を置く。会長及び副会長は、委員の互選によって定める」とあります。

これに則りましてまずは、会長・副会長に自薦される方並びに推薦がある方は、挙手をお願いしたいと思いますのですが、いかがでしょうか。

自薦・推薦ともにいらっしゃらないようですので、委員の皆様がよろしければ、事務局案を御提示させていただいてもよろしいでしょうか。

(齋藤教育長)

はい、それでは事務局案をお願いいたします。

(事務局：河村所長)

それでは、私の方から事務局案をお話いたします。

協議会の会長を、八戸市小学校教育研究会 代表 花生校長先生に、副会長を、八戸市中学校教育研究会 代表 老久保校長先生にお願いしたいと思います。

以上です。

(齋藤教育長)

ありがとうございました。ただいまの事務局案を承認いただける方は、拍手をお願いしたいと思います。

(委員) 拍手

(齋藤教育長)

はい、ありがとうございました。

会長・副会長の選任が終わりましたので、私の役目をここで終わらせていただきます。

それではどうぞよろしくお願いしたいと思います。

(事務局：河村)

齋藤教育長、ありがとうございました。

齋藤教育長はここで、公務のため退席させていただきます。

(齋藤教育長)

それでは、このあともよろしく願います。(退席)

(事務局：河村)

それでは、改めまして協議に入りたいと思います。ここからの進行は、センター運営協議会規則に従いまして、会長の花生校長先生にお願いいたします。どうぞよろしく願います。

(花生会長)

皆様こんにちは。本日議長を務めます小中野小学校の花生です。どうぞよろしく願います。議事進行に先立って、一言御挨拶申し上げます。15年前自分は事務局の立場で、そちらの席の方に座っておりました。どんな協議会になるのかなって緊張していたことを覚えております。4年間のコロナ禍が明けて、教育センターの方でも様々新しい事業の形や方法を模索しながら、今年1年頑張ってきたことと思います。どうぞ新しく変わった点も含めて様々アピールしていただければなというふうに思いますので、よろしく願います。それを受けまして、委員の皆様からのたくさん御意見それから御提言いただければ、

センターのこれからの事業に役に立つと思いますので、どうぞよろしくお願ひしたいと思ひます。

それでは、本日の進行について確認をいたします。このあと、センターの五つの事業について項目ごとに協議を進めて参ります。まず事務局より事業報告を各5分程度でお願いしたいと思ひます。そのあとで、質疑応答を行います。なお本日の協議会では、委員の皆様全員から御意見を頂戴したいと考えておりますので、御協力をお願いいたします。協議終了は、4時20分を予定しておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

それでは協議に入りたいと思ひます。

まず最初に「研修講座」について事務局より報告をお願いいたします。

(事務局：石井) 説明

(花生会長)

はい、御報告ありがとうございました。では、質疑応答にうつりますが、委員の皆さんから御意見御質問等ありませんか。

(前田委員)

御報告ありがとうございました。課題のところ、①番のところ、教育課題の解決といったところがございませうけれども、私的には授業改善というんですか、一斉授業を中心にした授業ではなくて、個別最適化という方向でのそういう方向での授業改善の視点というのを本校では必要だと思ってるんですけど、やはりこう、もし来年度以降の講座で、そのようなことをやる予定があったりとか、検討しているのであれば答えられる範囲で答えていただければと思ひます。よろしくお願ひいたします。

(事務局：石井)

はい、お答え申し上げます。ただいま授業改善、個別最適化というお話いただきました。実はですね既に次年度の研修講座に向けてセンターの方で行っております。まだ詳細については決定事項ではないので、お話することはできないのですが、これまでの主体的・問題解決的な授業づくりの研修講座であったり、特別支援的な研修講座であったり、そのあたりをさらにこの新たな形で改善して、新しい研修講座をできたらなという意見もありまして、現在検討しているところであります。で、授業改善、個別最適化、これからとても大事なキーワードだとは思っておりますので、今いただいた御意見を基にしながら、次年度の研修講座に向けて検討して参りたいと考えております。ありがとうございます。以上です。

(花生会長)

前田先生よろしいですか。他に。

(花生会長)

はい、中村先生

(中村委員)

丁寧な説明ありがとうございました。一点お伺ひいたします。先生方の事後アンケートでも大変評価が高く出ているということで、質の高い研修講座、充実した研修講座が行われているのだと思ひます。大変ありがたいと思ひていますが、実際、市内の先生方の受講者数

とでもいうんですか、割合というんですか、そのようなデータとか取っているのでしょうか。変容ぶりかもしわかるようであれば教えてください。よろしくお願いします。

(事務局：石井)

はい、割合までは手元にデータはないのですが、受講者数という形では登録をしております。やはり講座によってばらつきがある現状ではありまして、人気の高い講座であると、一講座、今年度実施したもので110人の研修講座がありますし、場合によっては10数人とか、ばらつきがある状況ではあります。なので、まずは先生方のニーズに応じて研修内容を見直していく必要があるのかなあとは思っておりました。

(中村委員)

ありがとうございます。

(花生会長)

中村先生、よろしいでしょうか。

(中村委員)

はい、ありがとうございました。

(花生会長)

他に、研修講座に関わって御質問御意見いかがでしょう。

(前田委員)

はい。

(花生会長)

はい、どうぞ。

(前田委員)

何回もすみません。成果のところでは高い評価を得ているということでした。本校においては研修講座を受けた内容に関しては、復命書で把握はできるんですけども、他の教員への還元という視点からですね、それは学校の中の話かもしれないけれども、アンケートの設問の中にですね、受けた研修内容を各学校において活用に結びつけたかとか、そういうふうなものがあれば、もしかしたらこれって自分一人だけじゃなくて、同学年であるとか、同じ教科であるとか、共有する必要があるなということが、よりいろんな方向から示されることになるなと思っていました。御検討いただければと思います。以上です。

(事務局：石井)

はい、貴重な御意見ありがとうございます。センターの方でも検討してまいります。ありがとうございます。

(前田委員)

ありがとうございます。

(事務局：河村)

はい、少し付け足します。前田校長先生、ありがとうございます。今のこの視点というのはとても大事なところだなと私自身も思いながらですね、お聞きしておりました。もちろん参加される先生方一人一人の資質向上は目的としているのですが、それだけに限らず、その

ことを各学校に戻った際にいろいろ生かして、みんなで共有するっていうのがやっぱり校内でのさらなる全体の資質の向上に繋がると思っていますので、ぜひですねアンケートの方に盛り込んでいけるように、Govatt かな、アンケート回答できるようになんとか進めていきたいなと思います。

(前田委員)

ありがとうございます。

(花生会長)

他に研修講座に関わっていかがでしょう。

(川上委員)

説明ありがとうございました。わからないので、聞きたいんですけども、資料を見るとですね、すごく多岐に渡る研修が用意されているんですけども、今これ対象の方に対してこういう研修ありますよっていう案内をして研修を行っているんですよ。例えばその一つの研修に対して、全然参加希望者がいないとか、0人とかですね、変な話一人二人とか、そういった場合でも実施しているのかとか、あとは定員オーバーした場合どういうふうを選別しているのかとか、まあそのへんちょっとわからないので知りたいなという質問です。お願いします。

(事務局：石井)

はい、お答え申し上げます。実際のところ一人二人という研修講座はなくて、まず少ない人数でも10人以上は参加しているので、今年一番少ないのでも12名、少ないですけど開催しております。あと定員オーバーというお話がありました、基本的にはコロナ禍が明けて一番大きな研修室で80名ですね。机を移動すれば100名とか入ることができますので、今のところ定員オーバーしたので受講を制限するとかそういうのはとっておりませんでした。以上です。

(川上委員)

ありがとうございます。こういう講座、募集かけたらこれくらい来たとか、それは例えばどういう年齢の先生が多かったとか、そういうデータは取っというですね、今後に生かしていただければなと思いますので、よろしくお願ひしたいなと思います。以上です。

(花生会長)

他に研修講座いかがでしょうか。

また、後になって研修講座について質問ができましたら、その時にまた伺いたいと思いますので、先に進めてもよろしいでしょうか。

では、続けていきます。

「教科等研究委員による研究」について、事務局より報告をお願いします。

(事務局：青山) 説明

(花生会長)

御報告ありがとうございました。では、質疑応答にうつります。委員の皆さんから御意見御質問等ありませんか。

(吉岡委員)

中学校教務主任会の吉岡と申します。説明ありがとうございます。質問意見にはならないかもしれませんが、まず私自身のことを言いますと、まあだいぶ昔にはなりますが、教科等研究委員をさせていただきました。あと何回か説明会等に来て、それぞれの研究を見せていただいて毎回思うのですが、すごくいい研究をしているなというのが来ての感想になります。ただ実際のところ、その内容が末端の先生方に伝わっているのかなというふうな思いがありまして。せっかくいい研究しているから、もっと先生方に広げていただいて、広く広げていただいて、工夫をされているなど。昨年度も研究会のところインターネットで流していただいたり、そういう工夫をされているなどは思っていたのですが、なかなかこう本当にこう見合った研究が先生方に伝わっているのかなと、若干こう疑問なところがあって。今回中学校の教務主任会では、先ほどあった校務 DX っていうのを教務主任の中で研究してということで、例年ですね、教務主任会では二つのテーマで毎年研究を進めてるんですけど、先ほど研究内容を浸透させるというふうな意味も含めまして、二つのうち一つですね、今年度やっていただいている校務 DX の件をテーマに加えて、教務主任会として研究していこうというふうなことで進めておりました。そうするとですね、やっている内容の研究がですね教務主任の先生方全体に広がるというふうに考えて活動をしております。うまく成果が出て、先生方に広がって市全体にですね広がっていくといいかなと思っておりました。以上、そういう取り組みをやっておりました。よろしく願いいたします。

(花生会長)

御意見という形でよろしいですね。

他に御質問御意見、いかがでしょう。

(乙山委員)

説明ありがとうございます。感想というか、意見という形になると思うんですけども、私は教科等研究委員で、視聴覚の立場ではなくて、教務主任という立場で今回4名で研究させていただいているんですけども、そのときに担当指導主事の方から校務 DX に関して、保護者も Win、教員、まあ学校側も Win、WinWin の関係じゃないと長続きしないからそういう視点を持ってしていこうということで、本校では校務 DX の一環として夏期の個人面談のスケジュール調整、保護者とのやり取りを全部デジタル化して、アンケートに答えていただくという形で行いました。紙媒体であれば、子どもが失くしたりだとか、持ってこなかったりとか、親が見なかったりとかいうことがあって、担任の手間が非常にかかたりするんですけども、今回、保護者にもアンケートを取ってみました。今回デジタル化してどうでしたか？というふうにアンケートを取ったら、9割以上の保護者がとてもよかったという感想を持ってくださいました。自分が研究委員という立場で研究があったので取り組んだんですけども、こういういい成果が出たっていうのは、やっぱりこう発表の時も周知しなければいけませんし、教務主任会に戻った時にも、こういうふうな形でやったらすごくよかったですみたいな感じで周知していかなければいけないと思うので、なんて言ったらいいかちょっとわかんないんですけど、うまくいったことが他の学校でも取り入れてみましょう

っていうことを、こうセンターの方からも発信していくと校務 DX がどんどん進んでいくんではないかなと。すみません、おこがましくも意見という形で発表させていただきました。以上です。

(事務局：青山)

はい、ありがとうございます。ぜひ教務主任会担当の指導主事にもこのことをお話しして、そのように広げていけるように頑張っていきたいと思います。ありがとうございました。

(花生会長)

すみません、質問していいですか。

今、乙山先生がおっしゃったこと、なかなか確かだと私も思ったんですが、いい成果とか学校で運営的にやられてたりとか、先ほど吉岡先生からもありましたが、教務主任会の方でこうやっていることなんかを発信するというか、教育センターとして具体的な案、校務 DX という言葉がなかなかまだ浸透してない、馴染んでないというところで、具体性を持った発信が必要かなと思ったりもするんですが、そのへんについて何かこう見通し考えていらっしゃることがあれば、お聞かせ願いたいなと司会が質問しました。すみません。どうでしょう。

(事務局：青山)

センターとしてもそうなんですが、例えば、この教科等研究委員の取組をですね、一昨年からは実はオンデマンド形式でクラスルームの方にアップする。それも昨年度この会議で御意見をいただいたおかげでですね、研修主任会で実は最初宣伝する時間を5分位いただいて宣伝することができてたんですね。また今のことを今度こちら教務主任会になってくるかと思うんですが、時間を可能であればそういう場を5分でもいただいて、ちょっとしたこういう成果がでましたっていうのを、まず教務主任の先生方にお伝えできる場が設定できればいいなっていうのをちょっと今考えていました。教務主任会担当が教育指導課の馬渡になるので、そちらの方にもぜひお話しして時間を取ってもらえるようお願いしたいと思います。

(花生会長)

はい、ありがとうございました。

(事務局：河村)

ひとつ。

(花生会長)

はい。

(事務局：河村)

今、花生校長先生がお話しされたことが本当にその通りで、教育 DX がまだまだ新しい分野とか、これから一生懸命取り組んでいかないとならないし、だからこそ、いろいろと私たちも情報発信するんですけども、そのことを受けながら各学校で今、乙山先生がお話しされたよううまくいった事例をですね、みんなで共有していくといったことが大事だと思います。簡単にはいかないと思うんですけども、すぐに簡単にこう誰でもできるって

うところを目指しながら進めていきたいと思っておりますし、教育委員会内でも、今日センターの運営協議会ってことでセンターの事業として話させていただいてますが、改めて今日の話を受けながらですね、センターと各課と連携とりながら、教育委員会全体として校務 DX っていうことをですね、浸透していけるようにですね、改めて検討していきたいと思っております。ありがとうございます。

(花生会長)

はい、ありがとうございました。他に教科等研究委員について御質問御意見ございますか。それでは先に進みますので、御意見ございましたら、また後ほどお話しください。

それでは、続きまして「教育の情報化推進事業」について事務局より報告願います。

(事務局：大下) 説明

(花生会長)

はい、報告ありがとうございました。では、質疑応答にうつります。委員の皆さんから御意見御質問等ありませんか。

(老久保委員)

中教研です。いつもお世話になっております。2点、本当に基本的なことをお聞きしたいと思っております。5ページの1の(3)教育情報ネットワークの更新に合わせグループウェアの拡充など校務デジタル化を推進する。グループウェアの拡充って何ですかってのが一つとですね、あと7ページのところで、今後の課題っていうところで、校務用コンピュータ更新に合わせて校務のペーパーレス化を推進するっていうことがあがってるんですが、センターの方で考えている校務のペーパーレス化ってのは、具体的にどのようなことを考えているのかなど。細かいところはそれぞれの学校で実情に合わせて行うんでしょうけれども、センターとしてはどういうふうなことを考えているのかなど。2点すみませんお願いします。

(事務局：大下)

はい、御説明いたします。まず1点目ですが、教育情報ネットワークの更新に合わせグループウェアの拡充などということですが、実は今年度中に、新しいネットワークの更新作業を進めております。それに合わせてですね、Govatt ですねグループウェアですね、そちらの機能を拡充していこうかなというふうに考えております。例えば、電子決裁ですね。デジタル上でこう情報を回したりとかですね。あと、教育委員会の方でですね、紙の方で提出していただいているものもですね、デジタル化の方をしたいなというふうに今計画はしております。実際どの程度できるかどうかはこれからですねとなっておりますが、そういったシステムを組み入れてですね、学校の方で紙であったものをデータに移行していくというふうなことをしていきたいなと考えております。それと関係しているんですけども、2つ目の内容ですが、校務用コンピュータ更新に合わせということ、先ほどあったペーパーレス化ということ、先ほどと同じ内容なんですけども、今まで紙で行っていたものをデータでやり取りできるようなシステムを今検討中でございますので、ちょっとこちら予算がかかることですので、実現に関してはこれからになるんですけども、今学校が紙で様々な仕事が行われていると思うんですけども、それもですねデジタル上で解決できるような、そういつ

た仕組みを作ってまいりたいなという計画をしております。以上です。

(老久保委員)

それは事務のことも関係してくるってことですか。事務にくる文書もデジタル化することでいいですか。

(事務局：大下)

そこまではまだちょっとわからないですが、今まだ検討段階ですので。なるべくデジタル化を進めていきたいなと思っているのですが、やはりどうしても紙じゃないとだめっていうものもあると思いますので、それを見極めて進めていきたいなと思います。

(老久保委員)

わかりました。ありがとうございます。

(花生会長)

よろしいですか。他に、御意見御質問は。はい、前田校長先生。

(前田委員)

はい。今年度途中に青森県の教育改革有識者会議っていうのが立ち上がってですね、その中の柱の中にもそれは働き方改革との関連における学校現場のデジタル化の推進っていうふうなことで、柱立てがあったように思っているんですけど、それとの何か絡みっていうふうなことをお伺いしたいなというのが一つと。もう一つは今ペーパーレス化っていう話が出たんですが、ペーパーレスにするのが目的ではないと思うんですよ。そのへんの捉え方っていうんですかね。DX イコール紙でなくて、デジタルにするんだよということ。何がメリットなのかっていうことをセットで伝えないと、手段と目的の取り違えという風なところにならなきゃいいなというふうに思っていました。はい、以上です。

(事務局：大下)

はい、ありがとうございます。まず最初の御質問、県の方針ということだったんですけども、実は県からは具体的な方針の方まだ知らされてないんですけども。例えば文部科学省の方ですね、今年の3月に校務DXに関する方針が示されてましたので、そちらを参考にしてくださいねどのように実現できるか、そういったのをすり合わせながら計画を立てております。校長先生のおっしゃったとおりですねペーパーレス化なんですけど、目的と手段のはき違えになりますので、ペーパーレス化することによって、例えばその非同期で決裁ができるとかですね、直接話さなくてもデータ上でやり取りができる。ペーパーレス化することによって様々なデータが収集できますので、そのデータを活用したデータ利活用そちらにつなげていくという。それが、例えば先生方の働き方改革につながるかっていうふうな、先生方のメリットを感じられるような伝え方をしていきたいと思っておりますので、こちら準備していきたいと思っております。貴重な御意見、ありがとうございました。

(前田委員)

ありがとうございます。

(花生会長)

他に御意見御質問いかがでしょうか。はい、釜石先生。

(釜石委員)

はい。端末の持ち帰りについてなんですけども、本校はやはり生徒指導上持ち帰らせて毎日3時間以上視聴しているというようなのが、校長会のアンケートでわかって、非常にこう持ち帰って勉強に使うのではなくて、恥ずかしい話で YouTube 見たりとかってのがわかってですね、そういう使い方をしている生徒が多くて、ちょっと考えものだなということで、端末の持ち帰りはストップしているところですが。これは、どうしても毎日、やっぱり端末を持ち帰らせないといけないのかなっていうふうにちょっと思っていました。市としてはどういうふうな考えがあるのかなってお聞きしたいなって思っ

(事務局：大下)

はい、ありがとうございます。持ち帰りに関してなんですけども、導入時のころから推奨はしております。というのも当初の GIGA スクールの目的であります、学校での学習を家でも継続して得られるとか、例えば家で自分たちで学習した成果を学校に持ってきて、それを生かした授業をするとか。これは国の GIGA スクール構想の基本的な方針です。ですので、令和2年度ですね、導入当時から持ち帰りは推奨しておりました。ただ、先ほど釜石先生もおっしゃっていた通りですね、先ほどのアンケートにもありましたけれども、やはり持ち帰ってからの使い方がよくないという、そういった声は持ち帰り始まった当初から聞いておりました。こちらも、先ほどの長時間やりすぎるとか、よく夜中までやってるとか、YouTube 見てゲームするとかですね、そういった、やはりちょっと使い方がよろしくないという現状は聞いております。よく文部科学省の方で話を聞くと、それぞれチャンスだと。そういった使い方をするときには、きちんと話し合いをして指導しましょうと。それで情報モラルを高めたいという話をよく聞きますが、まあなかなかですね、そういった余裕も、本来ならそういった方がいいのかなと思います、なかなか余裕がないかなというふうな現状は聞いておりますので。先ほども説明した通りですね、できれば手間もかかるんですけども、セキュリティのソフトの方ですね、導入を検討してですね、何とか実現にこぎつけていきたいなというふうに考えております。まず本当に予算のかかる話ですので、ご期待に添えないかもしれませんが、なんとか頑張っていきたいなというふうに思っております。はい、以上です。

(釜石委員)

ありがとうございます。

(花生会長)

乙山先生。

(乙山委員)

はい。何点か質問があります。令和5年度の主な事業、重点施策の中に(1)に児童生徒の情報活用能力の育成とありますが、教育アプリがものすごい今発達しておりまして、視聴覚研究会でもカフトであるとか、タブレットであるとか、キャンバであるとか、そういったアプリを使用しているんですが、そこら辺が使用してもいいのかどうかっていう辺りが

曖昧であったりだとか、子どもたちが Google アカウントを使ってそれに入ってログインしているわけですが、そういったところもどうなのかなということもこう曖昧なままになっているので、その点センターの方でどう考えているのかっていうことと、(2) 保護者連絡アプリの導入ってことでテトルが導入されたことによって朝の電話がすごい鳴らなくなって、職員室も落ち着いた状態で最初朝の準備ができるってことで恩恵にあずかっているんですけど、ただお便りの配布だとか、アンケートっていうところにテトルは弱くて、他に別に新規にそういったアプリを導入する可能性とかはあるのかということと、先ほどセキュリティソフトの機能ってことが出たんですが、本校でも持ち帰りを推奨してたんですが、本当数パーセントなんですけれども、やはり不適切な使用をする児童がいて、どうしてもそっちに引っ張られて持ち帰りを止めるということをとってしまわざるを得なかったのですが、セキュリティソフトにどういう機能がついてくるのかということをちょっとお聞きしたいなと思います。以上です。

(事務局：大下)

はい、お答えします。まず一点目ですが、キャンバとかカフトだとか、様々な教育系アプリがどんどん進んでいると思います。一応こちらの方に御相談いただければ、どんどん使ってもいいかなと思いますが、ただ注意していただきたいのはですね、使用年齢です。規約にですね 13 歳以上とかですね、アプリによっては、規約がちょっと小学生に不適切なものがありますので、実はそちらの方ですね御相談いただいたら確認を取っておりますので、どんどん御相談いただければよろしいかと思います。二点目ですけども、保護者連絡アプリですけども、導入したきっかけ、なぜあれを導入したかということ、費用が掛からないっていうのもありますが、機能が限定されているということです。いろんな機能がついてればついてるほど先生方使いづらくなっていくので、本当シンプルな連絡だけ、あとは配信だけっていうのでやっております。あとは連絡配信についてはですね、Google フォームのアンケートのですねリンクを貼れますので、Word で PDF で切ってハイパーリンクをはっていただいて、そうするとそこはしっかり飛ぶようになっておりますので。必要以上の機能は追加するんですね、かえって先生方に負担になるのかなというところを考えておりますので、今のところは他のアプリは導入する予定はございません。三点目ですけども、セキュリティに関してですが、こちら今検討中でございますので費用もかかることですので、これをやりますとはなかなか言えないんですけども、校長会とかですね、様々なところからも御要望いただいているので、やはり時間ですね。時間を夜中に動かないように制限するとか、夜中に端末を動かしてしまっている子とかいるということですので。あとはやはり不適切なサイトへのアクセス遮断ですね、この二点は必須のものかなというふうに考えておりますので、それがですね、まず、それがついていて、更にまた費用面であったりとか、あとは管理面ですね。先ほども言いましたが今は本当いろんなアプリがあって、いろんな機能もあるんですけども、逆に機能がありすぎると、先生方覚えるのが大変で、使い方が悪いということですので、そういった先生方の負担を考えつつですね導入についての情報収集等検討してる状況です。以上です。

(乙山委員)

ありがとうございました。

(花生会長)

他に御意見。

ごめんなさい、私一つ。今の一人一台端末が学校に導入されて、二年目、今三年目かな。今どうということが起きてるかという、このアンケートであれば今年度夏休みにクロムブックの持ち帰りしたかどうかを聞いてるんですけども、普段の持ち帰りの状況についてもアンケート確認とかしていますか。

(事務局：大下)

いえ、してないですね。

(花生会長)

何が起きてるかという、例えば小中野小学校、割と先生方も子どもも使ってるんですね。毎日持ち帰ってもいいというふうにして。そうすると、結構子ども自身が悪いことばかりじゃなくて、いい使い方を発見したりとか、それを先生方の方でクラスで共有して広げたりとか、様々な可能性を広げて、探ってるってことをやっています、実際。そういうふうな状況でいて、学校が変わりますよね。その先生が他の学校にかわったら、かわった先の学校がまだ持ち帰りといったところでストップという学校があって、どうも今までやってきたことが自分で出来なくなっているという、そういうことが恐らくこれからも広がっていくんじゃないかなと私は思ったりしてました。なのでその、セキュリティもそうなんだけど、やっぱりモラルを上手に、お金をかけるとかじゃなくて、モラルを一緒に育てていかないと、せっかく高価なお金で全員に素晴らしいものを持たせたわけなので、それがもっとももっとこう有効に使われて、なおかつ学校間の温度差みたいなのが先生方がかわっていった先でも同じように使える扱える環境が広がっていかないと、なかなかやっぱりこれは市全体の問題なのかなと。今の3年経って4年、5年で先生方だんだんだんだん異動していくわけなので、まあセンターの問題なのか、学校、校長、私たちも含めてなのか、ここは考えなきゃないと思うんですが、だんだんそういうことが起きつつあるのかなということを、ちょっと最近感じたりしてました。

(事務局：大下)

ありがとうございます。実際今、花生校長先生がおっしゃったとおりですね、学校間格差ですね、これが実は八戸市だけじゃなくてですね、全国の問題で、今までの説明のとおりですね、学校間格差が今八戸市だけじゃなくてですね、国全体で起きているっていうところで話を聞いております。ですからそれこそ異動した先で全然使い方が違うというところが非常に問題であるとかということが私も課題であると思っておりますので、先ほどもありましており、先ほど写真付きでありますようにですね、こういう使い方ありますよとか、情報モラルに関して、情報モラルも今ソフトも入れてるんですけども、そういうのを使うとかですね。そういったところも今後周知しながら格差をなんとか埋めていくような、そういったのも今後検討していきたいと考えていました。はい、以上です。

(花生会長)

ありがとうございました。では、教育の情報化推進事業についてはいいですか。続きまして、「国際理解教育・英語教育推進事業」をお願いします。

(事務局：西村) 説明

(花生会長)

御報告ありがとうございました。それでは、委員の皆さんから御意見御質問等ありませんか。はい、大江先生。

(大江委員)

主に感想になるんですけども、現在英語専科指導教員しております長者小学校の大江と申します。よろしく申し上げます。長者小学校では、ベン先生という ALT の方に来ていただいております。今年には日本に来て5年目を迎えます。特に年数を経るごとに自信をもって月1回の月例会のときに他の ALT の方が行っていた実践を自分もちょっとやってみたりですとか、私の方にこういういい ALT の実践が載ってるソフトっていうんですかね、そういうのがたくさん載ってるのがあって言って、そういう資料を提示してくださったりと、すごく自分なりにやり方を考えてくださったりということで自信をもって指導にあたっただいております。大変ありがたいなと思っています。是川小の方にも私行ってるんですが、こちらで今年の夏までお世話になったジェームズ先生も5年満期ということで、児童のこともよく知っていらして、中学校にはこういうお兄ちゃんがいてとか、すごくこうやっぱり長年いることで中学校まで長く見通しをもった指導とか、すごく子どもたちのことをよく把握しているなということで、私も子どもたちのこととか逆に教えていただいたりとか、そういうこともよくあります。なので、センター勤務の ALT が2名いらっしゃるということで、実践的な支援だけではなくて、生活支援の方も行っていただいて、すごく手厚くサポート体制がとれているんだなということでこれからもたぶんまた長年勤務される方が増えていくのではないかなと思っていました。それから ALT の配置についてですけども、中学校区で同一の ALT を配置していただいているってことで、急なやっぱり予定変更などもあるんですけども、そういうのも中学校の先生とメールで直接やり取りをして、いついつ長者小学校の方で見てもらえるかなとか、逆なパターンもありますけどもそういう急な予定変更も調整していただいたりということで、すごく身近にというか、すぐ私も直接個人的にメールで対応していただいているので、すごく助かっています。あとは、そのそういう調整を通して中学校の先生とも、中学校の英語の先生とやり取りをして親しくなることができたので、そういう面で小中連携の際には直接お話あって、それが小中連携ということでも、なんていうか、私たちのそれぞれの要望というかそういうのがお話しやすくなっているなと思っています。実際小学校で使用している Picture Dictionary という辞典があるんですけども、それを中学校でもぜひそのまま持たせてくださいというふうに言われて、卒業生には中学校行ったら持っていくんだよということで、持たせたところそれを小中連携の際、中学校の授業公開の際にも使っていただいて、子どもたちも慣れた辞典で言い方を調べながら、何ページについてるっていうので子どもたちは分かっているんで、そういうので小中

のスムーズな学習っていうのが移行できてるのではないかなと思って、すごくいい形で進んでおります。それからもう一つですが、先ほど今後の展望ということでALTの方のクラスルームを着手する予定ですということでしたので、私たち英語専科の方ではGoogleの共有フォルダの方で授業で使えるようなスライドだったりとかアイデアというものを撮りためるようにしていて、誰でもそれを共有できるようにってことで、すごくそれが役立っているんですけども、別な専科ではない担任の先生方も英語を担当してる方もいらっしゃると思うので、いくらでもアイデアっていうのは必要でないかなと思ってましたので、そういうALTの方々のアイデアとかがクラスルームに載ったりして、それを担任の先生方も活用できるような状況が早く広まればいいなと思っていました。やはり自分だけだと時間が足りなかったりとか、なかなかアイデアも尽きるところもあるんですが、いろんな先生方のアイデアとか、ALTの方のアイデアがすごく自分としては役立っているんで、それが今後こういうクラスルームを普通の担任の先生方も自由に使えるような形に広がっていけばいいなと思っていました。以上です。

(事務局：西村)

ありがとうございます。

(花生会長)

他に御意見御質問。和泉先生。

(和泉委員)

説明ありがとうございました。ALTの先生方も月例会で授業づくりの研修会とかなさってるって聞いて、やっぱりなんかすごく日々成長してるって、言い方変ですけど、努力している感じがすごく感じていたので、そうなんだなと思って私も今聞いて思いました。うちの江陽小学校なんですけど、ジョー先生が来てくださっています。すごい人柄もよく、子どもたちの接し方もすごく素晴らしくて、私たちも学ぶことが多いです。ただ、うちはまだ専科が入っていませんので、学級担任の先生方が打合せの時間を確かに十分にされているかといいますと難しい部分があるのかなと思って聞いていました。それで、やっぱり打ち合わせシートとか何か別な方法とかを使って、うまく打合せなんかできたらいいだろうなと思って、私もちょっとうまく言えないんですが、何かこう考えていけたらいいなと思ってます。ありがとうございました。

(花生会長)

他にいかがでしょう。よろしいですか。では最後になりますが、「視聴覚センター・児童科学館」について事務局より御報告をお願いします。

(事務局：畠山) 説明

(花生会長)

御報告ありがとうございました。それでは、委員の皆さんから御意見御質問等ありませんか。はい、和泉先生。

(和泉委員)

ありがとうございました。43年というと私が子どものころとあまり変わってないなと

思っていたので、そうなんだなと思ってお話を聞いていました。プラネタリウムの設備の更新がされるということで、すごくよかったなと思ってお話を聞いていたのですが、具体的にこうデジタル化されていって、それからせつかく子どもたちクロムブック持っているので、学校の中でも活用できるようなこととかをこれから考えているのかどうか、どのような改修になるのかをわかっている範囲でいいのでお聞きしたいのですがよろしいでしょうか。

(事務局：畠山)

はい、わかりました。プラネタリウムについては、現在の設備を更新して、今見れている星数だとか色だとかそういったものをもっと現実に近いようなものになるような改修を目指しているところです。展示物については今年度基本計画を練っているところですが、例えば学校で学んだことが科学館に行くときより深まるよとか、科学館でこういうこと勉強してきたんだけど学校に戻った時にも何か繋がって勉強になるよっていったふうに、学校ときちんと繋がりを持てるような展示物とか企画を考えてまいりたいと思っていますので、もう少し時間をいただければと思います。以上です。

(和泉委員)

ありがとうございました。

(花生会長)

よろしいですか。他に。

それでは、その他「教育センター運営」について、これまで御報告いただいた内容に戻ってもかまいませんので、何か御意見等ありましたらお願いします。

(吉岡委員)

はい、よろしいですか。教務主任会の代表として、先生方からも意見を吸い上げて今日の会議に臨んで来ているんですが、ちょっと運営にかかわるかどうかわからないんですけど、Govatt についてなんですが、これから教務主任としては、教育課程の様式とフォーラムから取り上げて吸い上げてですね、教育課程の提出書類等を作ることが多いんですが、フォーラムがだいぶですね、いろんな項目がたくさんあってですね、見づらくなっている、あとはだいぶ昔のやつでデータが残っていて削除されましたっていうのがそのあとずっと残っていたりしてだいぶ見にくくなっているっていうのが現状で前聞いたこともあるんですけど、資料とかをフォーラムに載せるのは簡単なんだけど、削除するとかそういうのは大変難しいというふうなことなんですけど、できればお願いなんですけど整理整頓ができると助かるなと思って話をしました。以上です。

(事務局：大下)

はい、お答えいたします。フォーラムがちょっとごちゃごちゃしているという話は多方面から聞いておまして、今ですね先ほどお話ししました更新に合わせてですね、そちらの方も整理しようかなというふうに考えておりますので、その際にはですね皆さんの御意見も聞きながら進めていきたいなと考えています。以上です。

(吉岡委員)

はい、ありがとうございます。

(花生会長)

すみません、まだ発言していない方に私が指名させていただいていいんですか。横沢先生。

(横沢委員)

はい、研修主任という立場から、この場で聞いていいのかちょっとわからないんですけども質問です。本校は研修講座受けたいってなったときにも、中堅研、初任研、2年次研修って、5・6人かたまってしまって、なかなか受けたいものに受けられないっていう現状がありました。さすがに同じ日に同じ時間帯に3人先生いなくなるのは困るっていうので、なんとか2人までにしてもらえないかなとかっていうので、学校事情というふうにはなってしまうんですけども、例えば見逃し配信的に、実は行きたかったけども行けなかったっていう先生方へのこう何かあると嬉しいなと思っているのが一つあります。あと、やはり研修に関わってなんですけれども、自分で校内研を組むときに、なかなかこう先生方の求めている研修と内容がマッチするようなものを自分がなかなか選べないっていうこともあって、今年度やって人数が多かったお薦めの研修はこんなものがありましたよと、少し、令和5年度お薦めベストファイブとかではないんですけども、少し紹介していただくと次の時に研修困っている先生方に、去年これが人気があった講座だそうですよというように私の方でも紹介できるかなっていう思いがありました。少しそのあたりを教えていただきたいなって、勉強不足がとても多いので教えていただきたいなっていう気持ちでお話しました。以上です。

(事務局：石井)

はい、お答え申し上げます。まず、見逃し配信っていうことですね、オンデマンド的なことだと思いますが、研修の内容、講義的なものであればまず可能かなと思います。ただ演習形式であれば、やっぱりその場において演習した方がってことなので、まずは内容、あとは講師の先生との兼ね合いもございまして、そのあたりもこちらで検討していかなければならない内容だと思っておりまして、ただいまの御意見ですね、今後の参考にさせていただきたいなと思います。まず技術的には全然可能なものだと思いますので。ありがとうございました。校内研の内容に関わってのお薦めベストファイブ、全部お薦めなので。っていうのも、ちょっとあれなんですけど、やはりですね校内研のテーマと合わせてっていう形になると思うので、個別に御相談していただければベストファイブをお伝えしたいと思います。

(横沢委員)

はい、ありがとうございます。

(事務局：石井)

ちなみに、今年人数がすごく多かったものとしてはですね、国語の授業力アップ研修講座、これが100名を超える大人気講座とはなっております。はい、以上です。

(横沢委員)

ありがとうございます。

(花生会長)

ありがとうございました。三戸先生、いかがでしょう。

(三戸委員)

はい。教科等研究委員のところで、いろんな先生からお話があったのですが、私自身今年初めて教科等研究委員をやってみて、今まで2月とかにセンターで発表しているものと、研究紀要のもの、私自身ちゃんと結びついていなかったり、あと今までどういう研究をされていたのかとかっていうのを、自分から聞きに行こうとかっていうふうに思わないと、なかなかそういう情報が入ってこないっていうのがあって、私自身本当に何も知らなかったなあって思うのですが、自分が中教研の理科の授業を見に行くと、こういうのがあるのかと思ったりっていうので、強制的にこう行く機会がないと、なかなか自分から情報を得ようと思っただけで研究紀要開いたりとかっていうのがなかなかないなと思ったときに、なんかこう本当に見当違いのことを言ったらあれなんですけれども、なんかこう中教研の発表の場だと、教科のやつはこうちょっと繋げて発表の機会とかを取れたりできないのかなって思ったり、今までの研究とかもこの間の研修の時に見させていただいて、こういうことがやられてたのか、知りたかったなっていうのもあったので、どこかでこう直接中教研のチームの発表も問題提起とかももう一つとかっていうので発表出来たりできるのかなってちょっと思ったりしたのですが、そこはどうなのでしょう。

(事務局：青山)

はい、お答えします。ありがとうございます。実はですね、先生が今おっしゃっていたことはコロナの前はですね、けっこう頻繁に行われていたようでした。中学校の先生が小教研を見に行ったりとかですね、その逆のパターンとかもやっていて、ちょっとコロナで会自体が開催されなくなってしまうとか、ちょっと下火になっていたところなんですけど、今年になって部会によっては、またそういう小中のやり取りみたいな取り組みを相互に参加するみたいなものが復活してきていましたので、こちらでも各教科の事務局さんにもですね、また徐々にそういったところを働きかけていきたいなと考えておりましたし、先生も本当に御自身でこれから研究を深めていくところだと思いますけど、小学校の授業参観してみたりとかっていう機会もですね、どんどん積極的に作っていただければなと思います。ありがとうございます。

(中村委員)

はい、今日はどうもありがとうございました。総合教育センターの皆様には八戸の教育の充実に向けて学習事業を進めていただいて大変ありがたいなと思っておりました。今日のお話を聞いて、我々校長会としても職員が先生方が研修に参加しやすいような学校現場の環境づくりとか、あるいは教育の情報化で各学校が足並みを揃えて進めていけるようなそういう教育的環境を作っていかなければいけないなというふうに感じておりましたので、どうぞまた総合教育センターの皆さんとお話し合いをしながら、八戸の子どもたちのために頑張っていきたいと思っておりますので、これからもよろしくお願いいたします。今日はありがとうございました。

(花生会長)

はい、ありがとうございました。他に、委員の皆様から御意見ありますか。よろしいでし

ようか。はい。司会が質問を連発したおかげで時間が押してしまいました。大変失礼いたしました。ありがとうございました。では、以上を持ちまして協議の方を終了いたします。御協力ありがとうございました。では、進行を事務局にお返しいたします。

(事務局：河村所長)

はい、それではですね、皆様長時間にわたって、当センターの各事業に対して様々な御意見いただきましてありがとうございました。そして、会長を務めてくださいました花生校長先生、副会長を務めてくださいました老久保校長先生大変ありがとうございました。花生先生におかれましては、時間内にぴたっと、本当にちょうどいい時間だなと思っておりました。私が長くしゃべりすぎなければ大丈夫だと思います。

最後に当センターを代表いたしまして一言御礼申し上げたいと思います。本日は、三連休明けで、大変お忙しかったところかと思えます。参加していただき、本当にありがとうございました。そして、最後に、中村校長先生からは当センターへ対して励ましの言葉をいただきまして、大変うれしく感じておりました。こちらの方こそ、共に八戸市の学校教育の環境づくりに向けて足並みを乱さないように揃えながら進めたいなと思っていました。どうしても、中核のセンターとして学校現場の一步先をと考えてやっていく中で、もしかしたら、学校現場の思いとずれるところがあったのではないのかなということを考えながら、今日うかがっておりました。そういう中、花生校長先生からですね、現場で何が起きているのかということをお話しいただきました。改めてですね、私たち先を見据えながらも現場の声にしっかりこう耳を傾けて、学校現場にしっかり寄り添った教育環境づくりっていうものを、今後も進めていきたいというふうに思っておりました。今日、たくさん御意見をいただきまして、個人的に昨年度と比較して、昨年度よりもさらにたくさん、そして具体的にですね、改善していけそうな御意見いただいたと思います。その中ですぐに改善に生かせるものもあったなと思えますし、少しお時間をいただいて、センターあるいは教育委員会内でしっかり揉んでから対応していくっていうのもあったと思います。それですね、皆様の期待にそえるように、そして子どもたちの成長のためにしっかりとセンター職員一同ですね健闘して邁進して参りたいと思います。どうぞ今後とも御協力いただきたいことをお願い申し上げまして、簡単ではございますが本日の御礼の言葉とさせていただきます。本当にありがとうございました。以上です。

ということで、司会に戻りまして、以上をもちまして今年度の八戸市総合教育センター運営協議会を終了いたします。本日は大変ありがとうございました。